山 行 報 告 書

作成：2006 年 5 月 1 日
愛知岳連　岡崎山岳会

山名[山域]	銀杏峰(1441m)　[奥越]	目的[方法]	残雪の白山展望
期間	2006 年 4 月 29 日（土）	形態	日帰りハイキング
参加人数	2 人		

行動記録：

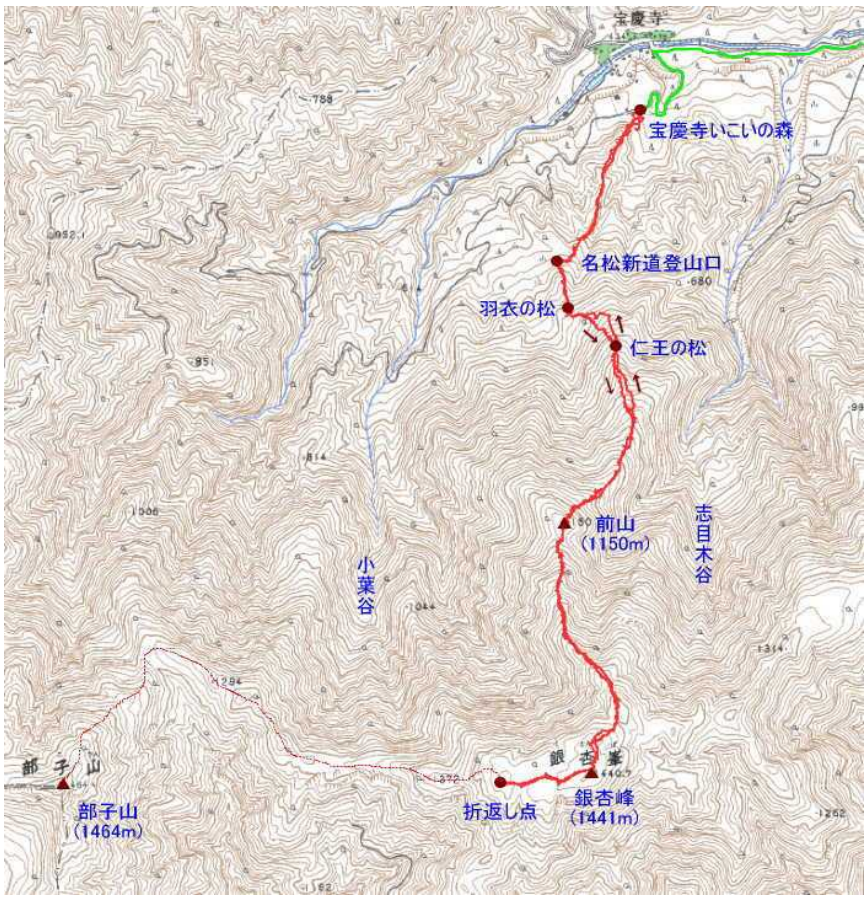
◇4/28(金)　曇り、無風、17℃@岡崎

岩津市民 C(2102) =0:08= 豊田東 IC(2110) =1:00= 長良川 SA(2210,2220) =0:35= 白鳥 IC(2255) =1:00= 大野「ローソン」(2355,000) =0:15= 宝慶寺いこいの森(015)TS1　就寝(035)

◇4/29(土)　晴れ時々曇り、弱風、10℃@銀杏峰

起床(500)　TS1(620) -0:25- 名松新道登山口(645,650) -0:10- 羽衣の松(700) -0:20- 仁王の松(720,725) -0:55- 前山(820,825) -1:10- 銀杏峰(935,1055) -0:35- 前山(1130,1150) -0:30- 仁王の松(1220) -0:15- 羽衣の松(1235) -0:05- 名松新道登山口(1240) -0:30- 宝慶寺いこいの森(1310,1335) =0:25= あっ宝んど(1400,1455) =0:15= 勝山サンプラザ (1510,1520) =1:05= 石川県県民の森(1625)TS2　就寝(1940)

概念図：



日誌：

宝慶寺いこいの森には広い駐車場と水洗トイレ（照明、ペーパー付き）があり、静かなので前夜泊に都合が良い。先客は姫路ナンバーのワゴン車 1 台だけだった。満天の星空に明日の好天気を期待して仮眠する。

姫路の 2 人パーティが先行する。階段を上って尾根に取付く。いきなりの急登に息が弾む。ほどなくなだらかになり、日当たりの良い尾根に淡いピンク色のイワウチワが賑やかに迎えてくれる。昨年迷った杉林は難なく抜け出して、一旦林道に出て名松新道登山口に至る。ここから再び急登になる。

仁王の松を過ぎると、ほとんど雪道となるが、良く締まっておりワカン要らずである。前山の急登はキックステップを利かす。前山からの眺めは素晴らしい。大野盆地越しに奥越の山々、白山が遠望できる。この先、主稜線に出るまでの尾根の雪庇は既に落ちていたが、亀裂が残っていたりするので不用意に東側に寄り過ぎないことだ。

主稜線は雪原というのが相応しいくらい広々としている。山頂手前の雪融け箇所に小振りのザゼンソウが慎ましく群れていた。風が強い山頂を避けて、展望を楽しみながら昼食をとる。朝より視界がクリアになり白山がハッキリしてきた。西方に目をやれば、部子山が手招いているようだ。2 時間ほどの余裕があったので、早めに昼食を切り上げ色気を出す。しかし、折返し点まで進み、この先の行程を見渡して諦める。往復 3 時間は掛かりそうだ。部子山から下山する周回なら日帰りも可能なように思うが、往復なら銀杏峰泊りになりそうだ。

銀杏峰山頂に戻り、腰を落ち着けて再度昼食をとる。熱いコーヒーを味わいながら、３６０度の展望を心行くまで楽しむ。

勝山サンプラザで食料を買い足し、石川県県民の森（本日から営業開始）に向かう。サイト料６１０円を支払い、前回と同様、大きな休憩舎（照明、流し台、トイレ付き）の下でテントを張らしてもらう。今夜は冷えるからと言って、薪を一束サービスしてくれた。車は園内に乗り入れ、休憩舎に横付けさせてもらう。こんなに親切な公営キャンプ場は珍しいのではないだろうか。薪による暖かさと親切な人の温もりで夕飯も美味しく、充たされた一日であった。

感想：

昨年に続き同時期に訪れたが、今回も好天気、好展望に恵まれたいへん満足でした。次回は是非とも山頂泊で部子山往復を果たしたいものです。